

令和4年2月10日

各位

トモニホールディングスグループの令和4年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和4年3月期第3四半期（令和3年4月1日～令和3年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和4年3月期第3四半期（令和3年4月1日～令和3年12月31日）連結業績

当第3四半期における経営成績につきましては、経常収益は、貸出金利息、役員取引等収益及び国債等債券償還益が増加しましたが、有価証券利息配当金、国債等債券売却益及び株式等売却益が減少したこと等により、前年同期比2,313百万円減少して50,415百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損、株式等売却損、株式等償却及び与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比6,890百万円減少して35,544百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比4,578百万円増加して14,871百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比3,519百万円増加して10,787百万円となりました。

当第3四半期末における財政状態につきましては、総資産残高は、前年度末比2,192億円増加して4兆6,271億円となり、純資産残高は、前年度末比106億円増加して2,537億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比1,917億円増加して4兆879億円、貸出金残高は、前年度末比1,374億円増加して3兆2,211億円、有価証券残高は、前年度末比513億円増加して7,507億円となりました。

		令和4年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	50,415百万円	△2,313百万円
	経常費用	35,544百万円	△6,890百万円
	経常利益	14,871百万円	4,578百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	10,787百万円	3,519百万円
		令和4年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	46,271億円	2,192億円
	純資産	2,537億円	106億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	40,879億円	1,917億円
	貸出金	32,211億円	1,374億円
	有価証券	7,507億円	513億円
	自己資本比率（国内基準）	8.74%	△0.08%

(2) 令和4年3月期通期（令和3年4月1日～令和4年3月31日）連結業績予想

令和3年11月12日に公表しております令和4年3月期通期の連結業績予想につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和4年3月期第3四半期（令和3年4月1日～令和3年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び役務取引等収益が増加しましたが、株式等売却益が減少したこと等により、前年同期比402百万円減少して24,576百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、役務取引等利益が増加したこと等により、前年同期比951百万円増加して21,845百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比898百万円増加して8,107百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,428百万円増加して8,043百万円となり、四半期純利益は、前年同期比1,462百万円増加して5,868百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比1,506億円増加して2兆2,997億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比1,532億円増加して2兆4,196億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比752億円増加して1兆8,176億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.00%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行いましたが、前年度末比5,370百万円増加して30,167百万円、総与信に占める割合は1.63%となりました。

		令和4年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	24,576百万円	△402百万円
	コア業務粗利益	21,845百万円	951百万円
	コア業務純益	8,107百万円	898百万円
	経常利益	8,043百万円	1,428百万円
	四半期純利益	5,868百万円	1,462百万円
	本業利益	4,856百万円	966百万円
	与信関連費用	490百万円	△692百万円
		令和4年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	25,642億円	1,427億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	22,997億円	1,506億円
	総預り資産	24,196億円	1,532億円
	貸出金	18,176億円	752億円
	有価証券	4,136億円	438億円
	自己資本比率（国内基準）	8.00%	△0.02%
	不良債権	金融再生法開示債権額	30,167百万円
	総与信に占める割合	1.63%	0.23%

3. 香川銀行

(1) 令和4年3月期第3四半期（令和3年4月1日～令和3年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、国債等債券売却益及び株式等売却益が減少したこと等により、前年同期比2,126百万円減少して20,451百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、役務取引等利益が増加したこと等により、前年同期比321百万円増加して16,842百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比355百万円増加して5,841百万円となりました。

経常利益は、債券関係損益が増加したこと等により、前年同期比2,412百万円増加して6,650百万円となり、四半期純利益は、前年同期比1,136百万円増加して4,691百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比412億円増加して1兆7,933億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比454億円増加して1兆9,347億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比623億円増加して1兆4,126億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.47%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップを図るとともに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた取引先企業への資金繰り支援を積極的に行った結果、前年度末比1,857百万円減少して26,436百万円、総与信に占める割合は1.83%となりました。

		令和4年3月期 第3四半期	
		前年同期比	
損益	経常収益	20,451百万円	△2,126百万円
	コア業務粗利益	16,842百万円	321百万円
	コア業務純益	5,841百万円	355百万円
	経常利益	6,650百万円	2,412百万円
	四半期純利益	4,691百万円	1,136百万円
	本業利益	3,613百万円	1,027百万円
	与信関連費用	△76百万円	△409百万円
		令和4年3月期 第3四半期末	
		前年度末比	
主要勘定残高・諸比率	総資産	20,582億円	759億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	17,933億円	412億円
	総預り資産	19,347億円	454億円
	貸出金	14,126億円	623億円
	有価証券	3,349億円	76億円
	自己資本比率（国内基準）	9.47%	△0.16%
	不良債権	金融再生法開示債権額	26,436百万円
総与信に占める割合		1.83%	△0.22%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部
株式会社徳島大正銀行 企画部
株式会社香川銀行 総合企画部

TEL：087-812-0102
TEL：088-656-1118
TEL：087-812-5132